

2018年11月14日

会 員 各 位

公 益 事 業 学 会
会 長 山 内 弘 隆

2019年度（第69回）大会報告者の募集

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当学会は2019年度（第69回）大会を2019年6月8日（土）、9日（日）の日程で名古屋市立大学にて開催することとなりました。報告形式は統一論題〔人口減少社会において公益事業はどのように対応すべきか〕および自由論題です。

つきましては、報告のご希望がございましたら、申込用紙にご記入のうえ下記要領にて事務局までお送りくださいますようお願い申し上げます（申込用紙は当学会ホームページ<http://www.jspu-koeki.jp/>からも入手可能です）。

なお、報告応募用紙提出後の報告論題の変更は、開催校の負担となりますのでお控えください。

記

申込期限：2019年1月10日（木）午後5時（**必着**）

申込資格：上記時点で2018年度までの会費完納の正会員
および特別会員に所属する者

申込方法：郵送・ファクシミリ・Eメール

採否、統一・自由論題の別等に関してはプログラム委員会で検討し、後日その結果をお知らせいたします。大会プログラム案については、2019年4月中旬を目途に、学会ホームページに掲載いたします。報告者には2019年4月14日までに予稿を別途提出していただくこととなりますので、あらかじめお含みおき願います。 敬 具

【連絡先】公益事業学会事務局

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-14-10

アーバンネット日本橋ビル

株式会社 情報通信総合研究所内

TEL・FAX： 03-3663-8201

E-mail： koeki@icr.co.jp

公益事業学会 第69回大会

開催場所： 名古屋市立大学（名古屋市瑞穂区）

日 程： 2019年6月8日（土）・9日（日）

統一論題： 人口減少社会において公益事業はどのように対応すべきか

人口減少社会において公益事業はどのように対応すべきか

わが国の人口は、2008年に1億2,808万人でピークを迎え、その後減少を続けている。2017年4月の国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の将来推計人口」の出生中位・死亡中位推計の予測によれば、2030年に1億1,913万人、2053年に1億人を割り9,924万人となり、2065年に8,808万人になるとされている。このようにわが国の総人口は2065年にはピーク時の70%程度となることが見込まれている。

この人口減少の影響を公益事業も受けざるを得ない。特に大きな影響が予測されるのが上下水道事業である。今後のさらなる人口減少により水道の有収水量は減少するであろうし、それに伴い下水道の有収水量も減少するであろう。そのため、上下水道とも料金収入は減少するものと予想される。また、施設の老朽化の問題がある。上水道では施設の更新が進んでいないという状況が生じているし、下水道でも将来水道のような状況になるかもしれない。さらに、経営の効率化がすすめられる中、職員数が減少し、技術の継承が難しくなっているという問題もある。このように今後の上下水道事業の経営はますます厳しくなっていくことが予想される。

この対策として、2018年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018」では、上下水道において「広域化や共同化、コンセッションをはじめとする多様なPPP/PFIの導入、ICT活用等を重点的に推進する」ことが示されている。事業統合だけではないそれ以外の多様な広域化・共同化が検討され、一部業務委託や第三者委託よりさらに一歩進んだ民間活用の手法であるコンセッション方式などが考えられている。そのために水道法の改正も行われようとしている。今後は上下水道事業の民営化も見据えられているものと思われる。

このような状況の中で、本大会は特に上下水道事業を念頭に置いて「人口減少社会において公益事業はどのように対応すべきか」を統一テーマとすることを提案する。今後ますます人口が減少していく中で、広域化や官民連携によって持続的な経営を行い、上下水道のインフラを維持していくことができるのか、公益事業の中で最後に残った公営企業である上下水道事業の民営化をどのように考えるのかなどについて議論することを提案する。

公益事業学会大会報告応募用紙 (1/2)

氏名		フリガナ ()
所属	大学・企業 団体部課名	
	役職	
連絡先	住所	
	TEL/FAX	(TEL) (FAX)
	Eメール	
報告論題		
報告要旨		

公益事業学会大会報告応募用紙 (2/2)

* 該当項目についてご記入ください。該当項目がなくても、必ず本票をあわせてご提出ください。

氏名		
同一論題での 他学会での 報告(予定 も含む)	学会名	
	報告年月日	
当学会での 報告実績 (直近大会 のみで可)	論題	
	年度	
	大会/部会 の区別	
当学会での 初めての 報告希望者 の方	最終学歴 (在学)	
	取得学位	
	主要業績 (収録雑誌名も)	
大学院生 の方のみ	指導教授 ご所属	
	報告了解の 指導教授 ご署名	